

磁気応用製品事業及び フィルム応用製品事業について

専務執行役員
小林 敦夫

磁気応用製品事業

◆記録デバイス（HDDヘッド）

- 3Qの出荷数量は、新型ゲーム機向けの需要増やPCのWindows XPの置き換え需要増により2Q決算時の想定を上回る(※出荷指数等は次ページ参照)
- 2.5inch HDD用 640GBヘッドの出荷開始
- HDDニアライン市場拡大速度は想定より遅いが、中長期で拡大する見方に変更なし

◆マグネット

- 集約した中国拠点（フェライト磁石）の生産性が改善、一貫ライン構築
- タイ大規模洪水でシェアを失った金属磁石は依然として販売が振るわず
- レアアースフリー磁石の拡販継続
- フェライト磁石の新工法立上げ

◆電源

- 半導体製造装置、FA機器、計測機器等における設備投資の回復
- 産業機器市場向けの販売が堅調に推移
- X-EV用DC-DCコンバータのマレーシア生産開始

記録デバイス

◆HDD市場

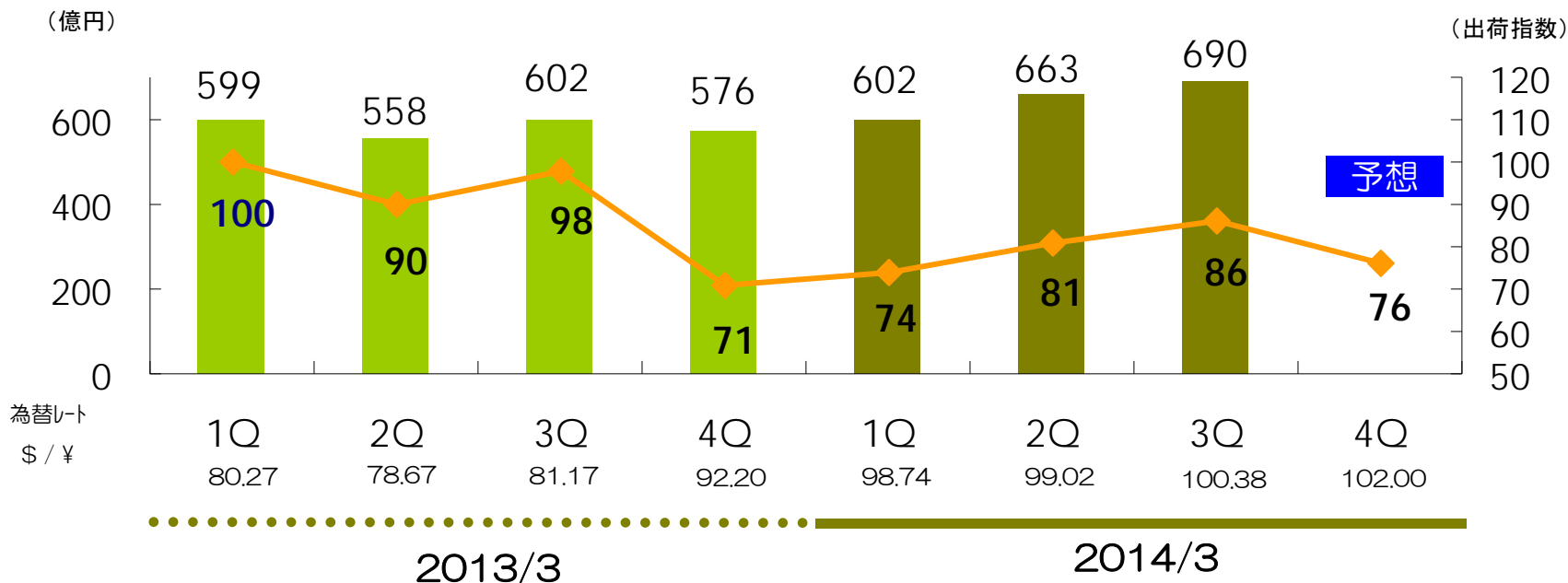
2013年3月期：約5.7億台（当社推定）

2014年3月期：約5.5億台（当社予想、10月末時点見通しから1千万台増加）

◆出荷数量増減

■ 記録デバイス売上高（左軸、HDD用ヘッド及びHDD用サスペンションを含む）

◆ ヘッド（HGA）数量出荷指数（右軸、2013年3月期第1四半期の出荷数量を100とした場合の指数）



フィルム応用製品事業

◆エナジーデバイス（二次電池）

- スマートフォン、タブレット端末市場向けの販売が堅調に推移
- スマートフォン、タブレット端末市場は現状の最重点市場の位置付け
- 顧客基盤の拡大と事業領域拡大のための研究開発の継続

◆アプライドフィルム

- 非中核事業であったデータテープ事業(*)からの撤退は4Qで完了見込み
- ブルーレイ事業は4Qに計画通り撤退完了見込み

*データセンター向けのLTOテープ事業

この資料には、当社または当社グループ（以下、TDKグループといたします。）に関する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、認識、評価等といった、将来に関する記述があります。これらの将来に関する記述は、TDKグループが、現在入手している情報に基づく予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として作成しているものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいるものです。従って、これらのリスク、不確実性、その他の要因による影響を受けることがあるため、TDKグループの将来の実績、経営成績、財務状態が、将来に関する記述に明示的または黙示的に示された内容と大幅に異なったものとなる恐れもあります。また、TDKグループはこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

TDKグループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス市場は常に急激な変化に晒されています。TDKグループに重大な影響を与え得る上記のリスク、不確実性、その他の要因の例として、技術の進化、需要、価格、金利、為替の変動、経済環境、競合条件の変化、法令の変更等があります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。

又、本資料では、業績の概略を把握していただく目的で、多くの数値は億円単位にて表示しております。百万円単位にて管理している原数値を丸めて表示しているため、本資料に表示されている合計額、差額などが1億円の桁において、不正確と見える場合があります。詳細な数値が必要な場合は、決算短信及び補足資料を参照していただきますようお願いいたします。



決算説明会の質疑応答を含むテキスト情報は以下のページに後日掲載をいたします。
http://www.tdk.co.jp/ir/ir_events/conference/2014/3q_1.htm